

教科教育課だより

～未来ある子供たちのために For Our Children～

第24号 R元. 9. 24

茨城県教育研修センター
教科教育課
☎0296-78-3213 (直通)



育成すべき資質・能力を明確にした国語科授業づくり研修講座

【A班】講師 樺山 敏郎先生 (大妻女子大学)

大妻女子大学HP (http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/teacher_search/teacher/detail.php?id=312)

単元の構成を意識した授業づくりのポイントは、以下の3点です。

- ①意味ある問を創り、学びを見通す。
- ②互いの見方や考え方を共有し、学びを深める。
- ③まとめと振り返りの充実を図り、学びを自覚する。

樺山先生の講義を基に、受講者一人一人が、これまでの実践について振り返る場面もありました。午後の研究協議で、受講者の皆さんが参考に使っていた樺山先生の資料を紹介します。



「読むこと」の単元を構成する上での10のステップ

- | | |
|--------|---|
| 振り返る | ①同系列の前学年・前単元の教材や指導を振り返る。 |
| 洗い出す | ②本単元を通して、どんな資質・能力を身に付けさせることが可能か洗い出す。 |
| 違いを知る | ③本単元の教材と、前学年・前単元の教材の違いを知る。 |
| 整理する | ④本教材がもつ特徴について整理する。 |
| 検討する | ⑤洗い出した資質・能力（指導事項）を身に付けるために、どのような言語活動が有効か検討する。 |
| | ⑥言語活動を行う上で、指導事項をどのように指導すればよいかを検討する。 |
| イメージする | ⑦児童生徒が行う言語活動の様子をイメージ（シミュレーション）する。 |
| 準備する | ⑧言語活動を行う上で、必要とされる補助教材やワークシート、手引き等を準備する。 |
| 配分する | ⑨単元全体の時間数や学習過程の区分を考え、時間を配分する。 |
| イメージする | ⑩学習過程の区分ごとに、大まかな授業の流し方をイメージする。（発問・板書等） |

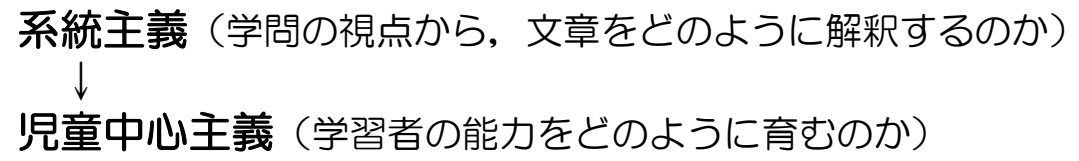


育成すべき資質・能力を明確にした国語科授業づくり研修講座

【B班】講師 鈴木 一史先生（国立大学法人茨城大学）

国立大学法人茨城大学HP (<http://kokugo.edu.ibaraki.ac.jp/index.php?id=49>)

鈴木先生の講義では、「授業づくりの視点」についてお話がありました。



今後の授業づくりでは、単元を通してどのような資質・能力を育成するのかを意識するとともに、どのような視点から授業を構築するのかについても考える必要があると感じました。
講義の最後に、鈴木先生がお話しになったことを紹介します。

教材研究から教材化研究へ（言葉の大海から魚を探して）

児童生徒は、日常的に膨大な「言葉」の中で生活している。その中から必要な情報を選択し、自分の考えとして形成することが求められている。
国語科の授業で考えると、従来の教材研究だけではなく、児童生徒に身近な言葉を教材化するための研究が、今後大切になってくる。
言葉という大海から栄養のある魚（言葉）を見つけることができるような、国語教師としての目利き、そして、見つけた魚（言葉）をおいしく食べられるようにする料理の仕方（教材化）を高めていきたい。



本研修講座を通して作成した「単元構想シート」をもとに実践した成果等について、教育情報ネットワークのメール機能を使って、研修講座の担当までお知らせください。

【担当】茨城県教育研修センター 教科教育課 坂本 要